

2020.11.29 仙台定例会  
藤坂龍司

## 1. 信号を渡る

歩行者用信号が、青（緑）なら渡る、赤なら止まる、ということを教える。

### <教える方法>

手作りの青信号と赤信号を用意する。画用紙を四角く切って、赤信号と青信号の絵を描く（あるいは Web のイラスト素材を利用する）。子どもがよく見えるように、1辺 20 cm以上のサイズに。



子どもを例えば廊下の端に立たせておいて、あなたは反対側の端に立って、両手に青信号を持っておく。青信号の裏には、赤信号を隠しておく。「おいで」と言って、子どもにこちらへ歩かせ、子どもが半分くらいの距離に来たら、赤信号の方を前面に出し、同時に「ストップ」と言う。子どもが止まられたら、強化する。

逆に赤信号を前に出しておき、「ストップ」と言って止まらせておいて、青信号を前面に出し、「いいよ」と言って、こちらに来させる。徐々に「ストップ」「いいよ」は言わなくして、信号の色だけで判断させる。

### <実際の信号への般化>

外を歩いていて、赤信号に出会った時、横断歩道の向こう側の信号を指さして、「信号、何色？」と聞いて「赤」と言わせる。「緑になったら進めだよ。緑になったら教えてね」と言って、注視させる（このとき、もうすぐ緑になる、というタイミングで注視させるとよい）。子どもが「緑になった」と教えてくれたら、「どうするの?」「進め」「そうだね」と言って、一緒に横断歩道を渡る。

徐々にプロンプトをなくして、自分で信号を判断させるようにする。ただし信号が青になったからと言って、すぐに飛び出すのは危険である（遅れて突っ込んでくる車があるので）。青になっても、ほかの大人がスタートしてからスタートするように訓練しよう。

### <赤になっても渡りきる>

娘はやがて信号が好きになり、好んで守るようになった。私たち親が、たまに赤信号を無視して渡ろうとすると、「赤は止まれ！」と言って、私たちを引き留めるようになった。

いいことだと思ったが、一度、それでひやりとした経験がある。

あるとき、家の近くの国道を急いで渡ろうとしていた。もう青が点滅状態で渡り始めた。当然、道の真ん中で信号が赤に変わった。すると娘は国道のど真ん中で「赤は止まれ」と言って、止まってしまったのである。私たちは焦って娘の背中を押し、何とか道を渡り切らせた。それから「途中で赤になっても、渡るんだよ」と言い聞かせ、同じような状態の時に、やはり背中を押し渡らせたなら、渡る途中で赤になっても、そこで止まることはなくなった。

## 2. 信号のない道を渡る

信号のない横断歩道や、横断歩道のない車道を渡ることを教える。

単に「右見て、左見て」という動作だけを教えると、首をぶんぶん左右に振るだけで、車を全く確認せずに渡ることになりかねない。それより「車どこ？」と聞いて、車を指ささせる。車がいなかったら、「いない」と言わせる。「じゃあ、渡ろう」と言って、一緒にわたる。

子どもが、「車がこっちに来てる／止まっている／向こうに行っちゃった」の区別が分かるのなら（あらかじめ、セラピーでおもちゃの車を使って教えておく）、「車、どう？」と聞いて、「来てる」なら「待つ」。「止まっている」か「行っちゃった」なら「渡る」ということを教えるとよい。

子どもによって時期は違うが、わが子の場合は、小学校高学年になって、十分判断力がついてきたと思えたので、初めて「自分で大丈夫、と思ったら、渡ってごらん」と言って、初めて家の前の道を一人で渡らせてみた。ただし危ない場合は、すぐに制止できる態勢で。

まだ自分の判断で渡らせるのは危ない、と思われるうちは、「道を渡るところで止まって、大人が来るのを待って、大人と一緒に渡る」という行動を教えるとよいだろう。わが家では、安全な歩道はなるべく手を離して、大人の先を歩かせ、歩道が尽きたところで大人を待って、大人が来たら、一緒に渡る、ということを教えた。

最初のうちは大人のそばを歩かせ、歩道が尽きるところで、「ストップ」と声をかけた。止まればほめた。止まれなかったら、すばやく制止して強く叱り、数メートル前に戻って、もう一度やり直した。そのうち、大丈夫と思えるようになったので、自由に少し先を歩かせるようになった。

<一人で帰宅させる>

小学校高学年の時に、かなり道を渡るスキルが完成されてきたので、一度、駅から自宅までの約15分の道のりを、一人で歩かせたことがある。「先に行ってごらん。パパを待たなくていいよ」と言って。

駅の近くには大きな国道があり、交通量が多く、一番の難所である。しかし娘はしっかり信号を守り、青になったら渡っていた。私はいつでも止められるように、油断なく、少し後ろをついて行った。そのあとも小さな交差点がいくつかあったが、娘は後ろを振り返ることなく、ちゃんと信号を守って渡っていた。信号のない車道では、車が来ない時を見計らって渡っていた。

こうして、いざとなれば一人で駅まで歩けることは確かめたが、その後、わが家では娘を一人で街中を歩かせたことはない。いつ予測不能な事態が起こるとも限らないし、人さらいだっているからである。

### 3. 車を避ける

歩道のない道を歩かせていると、前方や後方から車が来る。それをいかに避けさせるか。

我が家では、この訓練は幼稚園のうちから教え始めた。

最初から隅を歩かせる、という手もあったが、それはそれで、溝に落ちたりして危ない。そこでわざと道の真ん中寄りを歩かせ、私は後ろを歩いて、前から車が来たら、指示して避けさせていた。

その時、最初は「右」「左」と言って道の端が近い方に避けさせていたのだが、あるとき、娘が道のやや右側を歩いていたので、前から来る車を、道の右端に避けさせよう、として指示を出したところ、娘が間違えて左に動いてしまい、ひやりとしたことがあった。それからは「避けて」と言うだけにして、どちらか道の端が近い方に避けさせることにした。

<自分で判断させる>

小学校に入ってからだと思うが、それまで「避けて」と声をかけていたのを、車が前から近づいたら、無言で背中を触ることで、避けさせるようにした。最終的に、声をかけなくても、車がある程度近づいてきたら、自分で避けられるようにするためである。数か月すると、背中を触らなくても避けられるようになっていた。

<後ろから来る車を避けさせる>

難しい、と思ったのは、背後から来る車を、エンジン音を頼りに避けさせることである。しかしこれも、最初はエンジン音が近づいてきたときに「車来たよ」と言ってどちらかに避けさせ、次の段階では、無言で回避を促しているうちに、やがてプロンプトしなくても、自分からエンジン音を察知して、どちらかに避けるようになってきた。

あれから10年以上経ち、最近では、娘と二人きりで歩くこともなくなった。たまに一緒に歩くと、娘の現在の能力に自信が持てなくて、以前のようにいちいち声をかけてしまっている自分がいる。実際、普段は妻やヘルパーさんと手をつないで歩いていることが多いので、昔教えたことがどれだけ維持されているか、不明である。